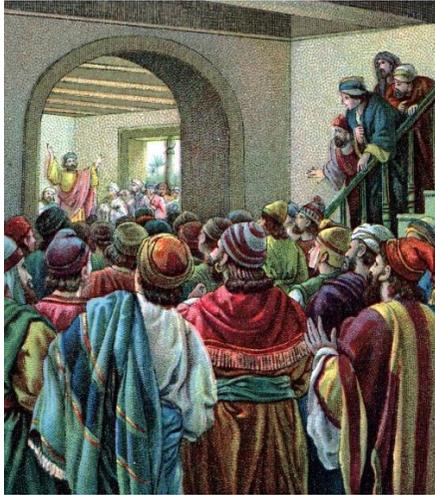


2023年7月16日 説教「救いのことば」

使徒の働き 13章 26～41節

パウロはピシディアのアンテオケで、イスラエルの民達に向け、その歴史と、ダビデの子孫として生まれたイエスを伝えました。



### 1. キリストを伝えるパウロ (25～29節)

①救いのことば (25)「兄弟の方々、アブラハムの子孫の方々、ならびに皆さんの中で神を恐れかしこむ方々、この救いのことばは、私たちに送られているのです。」

パウロは創造主なる神を信じるユダヤ人達が、キリストによって救われることを願い、彼らにキリストを宣べ始めています。

②イエスを殺すことに (26～28)「エルサレムに住む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる預言者のことばを理解せず、イエスを罪に定めて、その預言を成就させてしまいました。そして、死罪にあたる何の理由も見いだせなかったのに、イエスを殺すことをピラトに強要したのです。」

エルサレムのユダヤ人たちと指導者はイエスを、十字架につけてしまいました。それもローマの地方総督であるピラトを強要するかたちで死罪にしたのです。しかし、彼らは十字架刑にする理由を持っていませんでした。預言者のことばも理解していませんでした。

③墓の中に (29)「こうして、イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架からとり降ろして墓の中に納めました。」

そのようにして、イエスは十字架につけられたのです。そして、十字架からとり降ろされたイエスは墓に葬られました。

### 2. よみがえられたイエス (30～35節)

①イエスのよみがえり (30～31)「しかし、神はこの方を死者の中からよみがえらせたのです。イエスは幾日にもわたり、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに現われました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人となっています。」

神は葬られたイエスを、復活させました。そして、ガリラヤからエルサレムまでの道筋で、復活の主は人々の前に現われ、その人たちはイエスの証人となっていると、パウロは証しています。

②良い知らせ (32～33)「私たちは、神が父祖たちに対してなされた約束について、あなたがたに良い知らせをしているのです。神は、イエスをよみがえらせ、それによって、私たちに子孫にその約束を果たされました。詩篇の第二篇に、『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ』と書いてあるとおりです。」

パウロは良い知らせを伝えていることを強調します。それは詩篇二篇七節の約束の成就であると伝えたのです。「あなたを生んだ」という言葉は、特別の誕生であるよみがえりを示唆しています。

③朽ちることのない (34～35)「神がイエスを死者の中からよみがえらせ



て、もはや朽ちることがない方とされたことについては、『わたしはダビデに約束した聖なる確かな祝福を、あなたがたに与える』というように言われていました。ですから、ほかの所でこうっておられます。『あなたは、あなたの聖者を朽ち果てるままにはしておかれない。』

イエスのよみがえりについては、神がダビデにとこしえの契約として、示していただきました(イザヤ55:3)。さらに、そのたましいをよみに捨ておかず、墓の中においたままにされないことも約束されていました(詩篇16:10)。

### 3. 解放してくださる方 (36~41節)

①ダビデとイエス (36~37)「ダビデは、その生きていた時代において神のみこころに仕えて後、死んで父祖たちの仲間に加えられ、ついに朽ち果てました。しかし、神がよみがえらせた方は、朽ちることがありませんでした。」

ダビデは、生きていた時代において、神のみ心に従って、国を治める優れた王でした。しかし、そのダビデ王も死を迎え、父祖たちの仲間となり、朽ち果てました。一方、神がよみがえらせたイエスは朽ち果てることはありませんでした。

②罪の赦し (38~39)「ですから、兄弟たち。あなたがたは罪の赦しが宣べられているのはこの方によるということを、よく知っておいてください。モーセの律法によって解放されることのできなかつたすべての点において、信じる者はみな、この方によって、解放されるのです。」

罪の赦しは、この方によるしかないということが伝えられます。つまり、ここでは朽ち果てることのない方によってこそ、人は救われることが強調されています。モーセを通して与えられた律法の力によっては解放されることのできなかつた者たちが、今や、救い主イエスによって解放されるのです。イエスを信じることによって救われることが伝えられるのです。

③警告のみ言葉 (40~41)「ですから、預言書に言われているような事が、あなたがたの上に起こらないように気をつけなさい。『見よ。あざける者たち。驚け。そして滅びよ。わたしはおまえの時代に一つのことをする。それは、おまえたちに、説明をしても、とうてい信じられないほどの事である。』」

預言書から警告の言葉が伝えられます。そのようなことがおこらないように気をつけよと言われます。そこには、彼らがあざける者であることが告げられ、滅びよとまで言われているのです。彼らはいくら説明しても、信じようとしなからず。

### 《結論》

ピシディアのアンテオケにあったユダヤ人会堂(サンヘドリン)における、パウロの奨励の続きです。前の箇所、目の前の人々のほとんどがユダヤ人でしたから、イスラエルの民の歴史から掘り起こしダビデ王が立てられるまでの経緯が述べられました。パウロは、神はそのダビデの家系から救い主であるイエスが生まれたことを、伝えました。また、バプテスマのヨハネが、「その方

のくつのひもを解く値打ちもありません」と語ったことが伝えました。

今朝の聖書箇所では、イスラエルの民の心の支えであるダビデとイエスが比べられています。イエスは何の罪もないのに十字架につけられ、葬られたすえに、よみがえられたことを、パウロは伝えます。ダビデは優れた主の器でしたが、肉体において朽ち果てました。ところが、イエスは救い主として、よみがえられたのだと、パウロは強調しています。ここがきわめて重要なことです。ヨハネとイエスが根本から違った存在であるのと同じように、ダビデとイエスも比べても意味がないほどの違いがあると、パウロは伝えんとしているのです。

よみがえられた救い主であるからこそ、その方は罪を赦すことができる方なのです。「あなたがたに罪の赦しが宣べられているのはこの方によるのです」(38節)と述べているのは、人々が待ち望んだ救い主であればこそ、罪を赦すことができるということです。罪の赦しをこの方から受けよ! 救いのことばです。

人間の罪を赦す権威のある方は、罪のない方でなければなりません。イエス・キリストは、完全な人間ですが、完全なる神です。ですから、「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。」(Iペテロ2:22)とあるように、この方こそ罪を赦すことができる方です。そして、ついに、主イエスは人の罪からの救いのために、自らの命を投げ出し、十字架上で、私たちの罪の身代りとなって下さいました。ここに、救いのことばがあります。

それでは罪とは何ですか。罪という言葉は「的外れ」という意味がありますが、人間が見当違いのことをしていることです。創造主なる神を認めないということがその根本です。また、神がいらないかのように生きること、考え、行動することが罪です。その結果、自己中心が進みます。「悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさ」(マルコ7:21~22)などが表れず。傲慢な心で人を見下したり、配慮の無い言葉で人を傷つけたりします。人との関係は表面的なものとなり、信頼や愛が失われてしまいやすいのです。他方では孤独感、寂しさ、空虚な心に沈むこともあります。そういう時に、私たちにできることは、主の前に自分のありのままの状態(罪を)を伝え、赦していただく(Iヨハネ1:9)しかありません。

パウロはそこにいる人々に向かい、「信じる者はみな、この方によって解放されるのです。」(39節)と語っています。十字架と復活という恵みの福音が伝えられています。この方を信じよ! これが救いのことばです。

この目で、耳で、口で、罪を犯す私たち。罪の海は底が知れません。あなたは、自分が罪人であることを認めますか。そう気が付いた時は放っておいてはいけません。赦してくださる救い主の前に祈りましょう。日本に生きる多くの人々にはユダヤ人とは異なる意味で、主イエスを信じていくには壁があるでしょう。しかし、罪を赦してくださる方は生きておられます。人格的な方です。この方とは、親しく交わることができるのです。パウロはここで十字架と復活の主によって、罪の赦しが宣べられていると語っています。救いの知らせです! 私たち一人一人、また教会としても、改めてこの救いのことばによって立ち、進み、成長させていただこうではありませんか。